



# にじいろブレス Vol. 30



発行 2022.2.1

学育事業部

## 今月のテーマ 【今年度を振り返って】

### 【江東きッズクラブ豊洲四丁目】

#### ★消防署見学・図書館・児童館★

4月に職員の「あれやってみたい・ここいってみたい」の『ウィッシュリスト』を作成。今までの外での活動は公園だったところから、各施設と交渉し、初めの一步からもう一步踏み出しました。

子どもたちも職員もコロナが収束はしていない中、『初めて』を経験できたことはチームで力を入れてきたことの成果ではないでしょうか。

今後も外部との交流を四丁目の強みとして、保育園との直接的なやりとりができれば…と思っています。



### 【志村第二小あいキッズ】

#### ★キッズコーチ・折り紙工作先生★

子どもたちの活躍の場として力を入れた、野球・バスケットサッカーのキッズコーチや折り紙工作先生。経験者や得意な子がキッズコーチや先生となり、『みんなが楽しめるようにする』を合言葉に、事前準備や当日のイベントを進めています。そんなキッズコーチたちは、今では普通の何気ない校庭、室内遊びもその考え方を存分に発揮しています！ルールに疑問を持つ子がいれば集まって話し合い、時にはみんなの意見を掛け合わせた新しい遊び方を提案していました。これからも子どもたちが自分で考え、活躍できるように職員みんなでサポートしていきます！！



### 【上板橋第二小あいキッズ】

#### ★進化続くドッジビー大会★

今年度からスタートしたドッジビー大会！月に一度の大人気イベントとなりました。クッション素材のフリスビーである『ドッジビー』を使い、ドッジボールのルールで遊びます。ボールとは違い“当たっても怖くない”為、学年男女問わず白熱した試合をしています！熱量の高さから、悔し涙を浮かべながらも「まだ頑張れる！諦めない」と言う子がいるほどです。約1年でかなり上達し、低学年の子は上級生の速いパス回しにもついていけるようになりました。真剣な姿はとても輝いています！



### 【志村坂下小あいキッズ】

#### ★目指せ！あいキッズマスター★

『あいキッズマスター』とは進んで整理整頓をする、困っている友だちに優しく声をかける、相手の気持ちを理解する事ができる子どもたちです。6月以降、『あいキッズマスター』になるために、毎月の目標を理解して自ら考えて、誰かのために行動してくれる機会が増えました。職員も一緒に片づけなどをして、「ありがとう」を言葉にして伝えています。

今年度も残り2ヶ月。1人でも多くの子どもたちが『あいキッズマスター』になることに期待です！



### 【志村第六小あいキッズ】

#### ★一年を彩った職員部会イベント★

今年度から新たな取り組みとして職員部会を行いました！おやつ部・工作部・イベント部・農園部・花壇部に職員がそれぞれ分かれて、イベントを企画そして実施！おやつ部は、ハロウィンに自分でトッピングするパンケーキのお楽しみおやつを、工作部は季節に合わせた工作や作って遊べる工作などをやりました！いつもとは、一味違うイベントに子どもたちもウキウキで、リクエストにもう一度やりたいという声上がるほど好評なイベントもありました！来年度も継続して行っていききたいと思っています！！



### 【大谷口小あいキッズ】

#### ★SDGsの取り組み★

7月に行ったカプセルアート作りから始まり、不要な紙でもう一度紙を作る『紙すき』や、自分たちが取り組みたいことを考えて掲示した『SDGsビジョンマップ』など、様々な活動を通してSDGsに触れた1年でした。初めは「SDGsって何？」というような声が多かったのが、今では遊びの中で「その紙、まだ使えるよ」、「それってSDGsじゃないね」などの会話が聞こえてくる程、身近なものになってきました。これからも楽しみながら、取り組んでいきたいと思ひます！



### 【志村第四小あいキッズ】

#### ★やりたいことを選べる放課後★

「楽しい」「やりたい」と思うことはそれぞれ。どの子ども「楽しかった」「やりたいことがやれた」という気持ちで帰宅できるように、1日の活動に選択肢をたくさん作りました。『晴れでも校庭遊びと体育館遊び、どちらも選択できる』『イベントはあるけどいつもの遊びもできる』『何があっても昨日の漫画の続きが読める』そんな風にした結果「バスケットでも体育館で出来るのは嬉しい」「色んな遊びがあって選べて嬉しい」子どもたちからはこんな声ももらっています。今後も、押しつけではない「楽しい」を提供できることを常に意識して子どもたちと関わっていきます。



### 【若木小あいキッズ】

#### ★子どもたちが主役★

「〇〇をやりたい」でも「どうしたらできるかな？」を子どもたちと一緒に考えるために、まずは先生たちもあいキッズのルールを知ろう！とスタートした職員会議。ドッジボールの曖昧だったルールを統一して、迷っている場面を共有しながら子ども目線で職員の考えを合わせました。

「子どもたちみんなが楽しむために遊びにはルールがある」「子どもたちの『なんで？』の声に先生たちも一緒に考えたり、提案するよ」そんな思いが伝わり、子どもたちは遊びを発展させたり、ルールを進化させたりするようになってきました。今後も“子どもたちが主役”のあいキッズにしていきたいと思ひます。

